

## 第1回 殿ダムモニタリング委員会の総括

### 1. 審議の内容

平成22年3月9日に開催した第1回殿ダムモニタリング委員会において、以下の内容について審議を行った。

#### ○対象事業

殿ダム建設事業

#### ○審議内容

- (1) 殿ダムモニタリング委員会の規約
- (2) 殿ダム建設事業の概要
- (3) 環境影響予測の結果及び環境保全措置の実施内容
- (4) 殿ダムモニタリング調査計画
- (5) その他

### 2. 審議の結果

審議結果は以下のとおりである。

#### 1) 環境影響予測の結果及び環境保全措置の実施内容について

- ・直接改変区域内の植物の移植を行う28種類の内12種類しか実施しない理由は何か。  
→28種類を保全措置対象としていたが、現地にて確認されたものが12種類であったため、保全措置を行っている。
- ・H20年以降に個体数が減っている種が多いが、原因として何が考えられるか。  
→現時点では、原因が不明なため、引き続き調査を行う。

#### 2) 殿ダムモニタリング調査計画について

- ・堤体の管理上のデータを示して欲しい。  
→次回以降情報提供して行きたい。
- ・魚類の調査時期が(春、秋)となっているが試験湛水後の流量において調査を実施して欲しいため、(夏、秋)とならないか。  
→夏、秋へ変更する。
- ・ダム湖内の水質調査の調査水深はいくらを考えているか。  
→表層、貯水位中間、底層から1m上の3層を考えている。
- ・試験湛水時に平常時と比べてどの程度流量がカットされるか。  
→検討した上で、報告する。
- ・富栄養化関連項目にTOC(有機物量)を追加してほしい。  
→ご指摘のとおり追加する。
- ・調査データの報告のみとなっているが、分析評価はしないのか。  
→調査を進めながら、評価できるものについては、評価し、難しいものについては、調査・評価方法についてご指導いただきたい。

#### 3) その他

- ・連続サイフォン式の選択取水設備を採用しているダムは国内で何箇所あるのか。  
→国内では、羽地ダム・志津見ダム・尾原ダム・殿ダム等が採用している。
- ・連続サイフォン式を選定した理由  
→従来と比べ構造がシンプルであるため、機械設備の不具合が少なくなる事と、空気を動力とするため、コスト縮減が図れるため。